

がん検診を受診される方へ

- 胃がん・肺がん・大腸がん・乳がんは、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。子宮頸がんは女性のがんの中で罹患する人が多く、特に30～40歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。
検診を受けることでがんによる、死亡リスクが減少します。
- たばこを吸わない人に比べて、たばこを吸う人は日本人男性では約5倍、女性では約4倍、肺がんで亡くなるリスクが高くなり、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすいという研究結果が出ています。たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人（受動喫煙者）の肺がんリスクも高めてしまいます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。
- 検診は胃がん・乳がん・子宮がんの場合、2年に1回、肺がん・大腸がんの場合、1年に1回、定期的に受けてください。ただし何らかの自覚症状がある場合は、次回の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
- がん検診の種類によって、精密検査の方法が異なります。どのような医療機関で精密検査を受けたらいいかは、検診を受けた医療機関・かかりつけ医などにご相談ください。

対象検診	精密検査の方法
胃がん 胃部X線検査	胃内視鏡検査
胃がん 胃内視鏡検査	検診時に同時に行う生検 または胃内視鏡検査の再検査
肺がん	CT検査や気管支鏡検査
大腸がん	全大腸内視鏡検査または 内視鏡検査と大腸のX線検査の併用
乳がん	マンモグラフィの追加撮影、超音波検査、 細胞診、組織診
子宮頸がん	コルポスコープ（膣拡大鏡）下の組織診や 細胞診またはHPV検査

- 自治体で推奨しているがん検診は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。

対象臓器	推奨している検診方法	受診間隔
胃	胃のX線検査または胃内視鏡検査	2年に1回 当分の間、胃のX線検査は年1回の実施も可
肺	肺のX線検査および痰の検査 (痰の検査は、50歳以上で喫煙指数が600以上の人。 喫煙指数＝1日の喫煙本数×喫煙年数)	年1回
大腸	便潜血検査	年1回
子宮頸部	子宮頸部の細胞診および内診	2年に1回
乳房	乳房X線検査（マンモグラフィ）	2年に1回

- がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、全てのがんが、がん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精検」と判定される場合もあります。
- 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。（医療機関の検診精度向上のため）